

秋田遠景近景

日銀秋田支店長コラム

スポーツは自分で参加するの
も観戦するのも大好きだ。秋田
の地に来て、久々に当地チー
ムを応援する喜びと、負ける時
の悔しさを味わっている。ラグ
ビーやバスケット、サッカーで
多様なプロチームや社会人チー
ムが先導し、500歳野球の活
況や学生スポーツの裾野も広い

本県は、「スポーツ立県」の名
にふさわしいと言える。そんな
中、長年懸案とされていたサッ
カースタジアムの本格的な協議
が始まったことに注目が集まる
のは自然な流れだろう。

私の故郷鹿角市も、神村学園
が全国高校選手権で優勝するな
どサッカー熱はそれなりに高い
が、Jリーグ基準を満たすよう
なスタジアム建設問題は迷走を
続けている。候補地が二転三転
し、建設費捻出に四苦八苦して
いるところも似ている。

洋の東西を問わず、スタジア
ム建設費は巨額なことから、さ
まざまな論争を引き起こしてき

新スタジアム

生産的議論で合意形成を

た。自身で見聞きた例では、
2012年ロンドン五輪のメイ
ン会場として建設されたオリ
ンピック・スタジアムは、五輪
後、地元サッカーチームのウェ
ストハムが本拠地として維持費
を払うことで、国民による税負
担を抑えようとした。

昔留学していた米サンディエ
ゴでは、MLBパドレスとアメ
フトチームのチャージャーズが
一つのスタジアムを共用してい
たが、老朽化を受けてパドレス

は市と新球場を造り、一方チャ
ージャーズが求めていたアメフ
ト用の新スタジアム建設は住
民投票で否決され、チームごと
ロサンゼルスに移転していっ
た。

このように、公共の資金が関

わる大規模なプロジェクトで
は、慎重な議論と広い視点での
計画が必要とされる。

では、今回の秋田県における
スタジアム建設の議論では、ど
のようなポイントが考えられ
るのか。全国的に注目を集めた
のは、人口減少がどの地域で
も課題となる中、スタジアムの
建設費や維持費に多額の資金
を投じた場合、それが中長期
的にどのような意義をもたら
すかについて、地域全体での十

分な理解を得る必要がある点
だ。

また、本県にはすでに約2万
人を収容可能な多目的競技場の
ソニースタジアムが存在する
が、フットボール専用ではなく、
客席の屋根やトイレなどいくつ
かの点でJリーグ基準を満たさ
ないこと、ほかに、改修する
場合と新規に建設する場合の費
用がほぼ同額になり、地元自治
体にとって「お得」な選択肢は
ないこと。加えて、国からの補
助金が多めに支給される新築の

場合であれば、総工費の約3割が
地方自治体負担となる上に、プ
ラウブリッツ秋田を含む民間か
らも相応の資金調達が求められ
ること、だろうか。

秋田市は昨年行われた国勢調
査で人口30万人を割りそうなこ
とから、事業所税が徴収できな
くなる可能性が高い。人口減少
のトレンドが続く、納税者も減
っていく中で、年間約1億円と
予想される維持費を負担するの
も大変だ。また、スタジアムが

フットボール専用として利用用
途が限定されることも、理解を
得にくい部分かもしれない。こ
のような課題に対しては、例え
ば陸上競技場との併用を可能と
するスタジアム設計の柔軟性を
検討するなど、Jリーグ側と協
力しながら模索を重ねていくこ
とも重要だ。

課題ばかり列挙したが、スポ
ーツを通じた地域活性化や地元
愛の高まりは、確かに存在する。
最近でも、男子バレーの雄物川
高ベスト4進出に快哉を叫んだ

県民もいるだろう。どのような
競技でも、地元選手が全国や世
界で競う姿を応援する心情は多
くの県民に共通するのではない
か。それらは簡単にお金の価値
に代えられるものではなく、本
県にとつても必要なプライドの
醸成でもあり、次世代のスポー
ツ文化を育む大切なゆりかごで
もあると思う。

サッカーの話に戻ろう。サン
フレッチェ広島の本拠地として
2024年に開業したエディオン
ビースウィング広島も、実に
15年以上にわたる議論を経て
ようやく実現したという例があ
る。00年代初めに建設が検討さ
れて以降、サンフレッチェは主
に森保一監督の指揮の下、連覇
を含むJ1優勝3回、まさに実
力でチームの存在意義を証明し
てみせた。

ブラウブリッツ秋田も、健全
経営で必要な運営収入を確保し
ながら、ひたむきなプレーで本
県を盛り上げ、スタジアム建設
を大きく前進させるような活躍
を期待したい。

（種村知樹・日本銀行秋田支
店長）

〈随時掲載〉

